

群馬県における水圏環境教育の有効性 ～高大連携による水圏環境学習会～

東京海洋大学 小高友実・神崎かおり
石丸 隆・佐々木 剛
群馬県立尾瀬高等学校 松井孝夫 他

群馬県

吹割の滝



出典：群馬県庁ホームページ



出典：沼田市ホームページ

はじめに

東京海洋大学では、水圏環境教育推進リーダーの養成を目的とした水圏環境リテラシー教育と小学生等を対象とした水圏環境教育や啓発活動を行っています。水圏環境教育とは、海や川などの水圏環境における教育活動を示します。水圏環境リテラシーを高めるには、水圏環境教育が必要不可欠です。

水圏環境学習会

「この川は どこへ行く？～群馬県と海～」

平成21年7月19・20日の2日間、群馬県利根沼田地域在住の小学生（8名）を対象に開かれた学習会は、東京海洋大学水圏環境教育学研究室（2名）と群馬県立尾瀬高等学校（5名）との高大連携により、学生が主体となって実施しました。

高大連携を取入れたのは、日本における環境教育には生活や地域を視野に入れたものが求められており、近い将来の地域や地域の自然環境を担う高校生たちとの協力が重要であると感じたためです。

開催地は、群馬県立尾瀬高等学校と群馬県沼田市に位置する吹割渓谷周辺です。



導入 「お魚かるた」

チーム対抗かるた大会で、楽しみながら水圏環境への興味をもたせます。レトロな絵柄のかるたです。



ふいかえり

絵本「マスオクんの大冒険」

ラーニングサイクル理論

水圏環境学習会のプログラム作成

ラーニングサイクル理論を基にプログラムを作成しました。群馬県と海とのつながりを川を通して再発見してもらえるよう、身近な生きものや食べ物を題材にしたプログラムとなっています。

探究 「りんごご海」

リンゴを地球に見立て、陸地と海の割合や、海の生産性と保護の大切さを考えます。



応用

「この川は どこへ行く？」

高校生スタッフのガイドの下、吹割渓谷でフィールドワークを行います。水の流れを体感し、水圏環境を取りまく環境全体を理解します。



概念の確信

「今日は何の日 知らないの？」

水の循環の中での群馬県の役割をクイズ形式で楽しく解いていきます。水圏環境が豊かな群馬県には多くのダムがあり、それらが支えている人々の生活や水が有限な資源であることを理解します。

アンケート調査結果

水圏環境学習会後の水圏環境への興味・関心・意欲
学習会前

児童の水圏環境リテラシーの高まりにおける母親の役割
上：児童 下：保護者

川は好き？		海は好き？	
回答 設問①	理由	回答 設問②	理由
A 好き たのしいから	B 好き たのしいから	A 好き たのしいから	B 好き たのしいから
B 好き たのしいから	C 好き たのしいから	C 好き たのしいから	D 好き たのしいから
C 好き たのしいから	D 好き たのしいから	D 好き たのしいから	E 好き たのしいから
D 好き たのしいから	E 好き たのしいから	E 好き たのしいから	F 好き たのしいから
E 好き たのしいから	F 好き たのしいから	F 好き たのしいから	G 好き たのしいから
F 好き たのしいから	G 好き たのしいから	G 好き たのしいから	H 好き たのしいから

川に行きたくなった？		海に行きたくなった？	
回答 設問③	理由	回答 設問④	理由
A 好き たのしいから	B 好き たのしいから	A 好き たのしいから	B 好き たのしいから
B 好き たのしいから	C 好き たのしいから	C 好き たのしいから	D 好き たのしいから
C 好き たのしいから	D 好き たのしいから	D 好き たのしいから	E 好き たのしいから
D 好き たのしいから	E 好き たのしいから	E 好き たのしいから	F 好き たのしいから
E 好き たのしいから	F 好き たのしいから	F 好き たのしいから	G 好き たのしいから
F 好き たのしいから	G 好き たのしいから	G 好き たのしいから	H 好き たのしいから

水圏環境学習会のこと、確かにお話しした？	
回答 設問⑤	理由
A した	B した
B した	C した
C した	D した
D した	E した

お子様に対して環境教育を実施していますか？	
回答 設問⑥	理由
A した	B した
B した	C した
C した	D した

おわりに

今回の水圏環境学習会の開催とアンケート調査から、児童や保護者の水圏環境教育の欠如等が示唆されました。しかし、参加児童においては、それらに改善された点も見受けられ、学習会は有効であったと考えられます。今後も群馬県での水圏環境教育を発展させるため、より良いプログラムづくりを検討していきたいと思ひます。